

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
いただき	約1.4ha	626kg/10a	118kg/10a(508kg/10a ※)

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族経営(本人)(昭和62年より営農開始)
- 米と大豆を中心とした家族経営
- 経営面積:13.9ha

【作付品目】

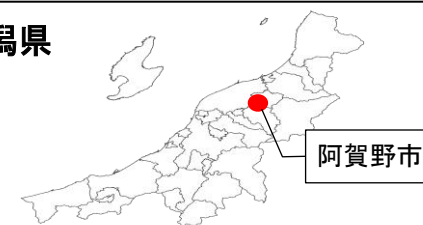
- 主食用米 コシヒカリ 7ha
こしいぶき 1.4ha、こがねもち 0.8ha
- 飼料用米 いただき 1.4ha
- 大豆 里のほほえみ 2ha



【取組のきっかけ】

- 飼料用米の導入のきっかけは、平成28年から地域のライスセンター(平成4年設立)での取扱いや他の作物との作業競合を避けるため、コシヒカリ収穫後に収穫を行う晩生品種の「いただき」の栽培を開始した。

新潟県



【多収のポイント】

- 用水の取水停止となる9月10日までの間、20~30cmの深水管理を行うことにより、水稻の茎を太く成長させ、単収を確保。また、深水管理することで、雑草抑制と水温の上昇を抑制。
- 中干しを、早めに実施することにより、無効分げつ数を抑え茎を太く生育。(6/10落水~6/20に溝切し7月に入水。)
- 施肥については、田植え時に一発肥料(40kg/10a)を側条で施肥するとともに、穂肥として、尿素(5kg/10a)を施用することにより、省力化と肥料切れを防止。

【コスト削減等のポイント】

- 田植えは、15枚/10aの疎植(43株/1坪)を行うことにより、苗箱数及び運搬量のコスト削減を実施。
- 収穫直前まで、水張り、排水後、短期間で圃場を乾かし、コンバイン等が入られるように自力で暗渠を施工。(溝堀機で溝を掘り、パイプを設置の上、もみ殻を投入。)
- 各種作業(育苗、収穫、乾燥・調製)ごとに地元の農家による作業組合を結成し、農業機械や施設の共同利用を通じて省力化を実現。